

発表③：「メルゲド総合学校 4 年生におけるスタンダード実践報告」  
D. ドラムスレン先生




**メルゲド学校ににおけるスタンダード実践授業**  
 対象学年 4年生  
 日本語学習者 760人  
 メルゲド学校の日本語クラス開設年 1998年  
 小学校2年生から11年生の半年間  
 メルゲド学校の日本語実践教師  
 ド。ドラムスレン

1

**授業時間数と学習者数**  
 対象学年 4年生  
 学習者数 31名 (14男子名 17女子名)  
 学習開始学年 2年生から  
 学習時間 週3時間 (1時間は40分)  
 現在までの学習時間 (2013年2月末) 約39時間  
 スタンダード実践開始 2012年 10月  
 使用教科書 なし  
 メルゲド学校での教師歴 16年目

2

**スタンダード授業準備**  
 ・年間指導案を作成  
 ・それに基づいてCan-do表、自己評価表を作成  
 ・学習者及び教師用のポートフォリオ用 準備  
 ・モンゲニ学校の中西先生と、モンゴル国立大学のドルゴル先生、オユンゲレル先生、菱川先生メルゲド学校に来校  
 スタンダードの授業相談、メルゲド学校の教育マネージャも参加

3

**授業時間割り**

1学期			
授業	授業課題	時	授業の目標
1	数字	1	数字が読める、書ける
2	野菜の名	2	野菜の名前が読める、書ける
3	い形容詞	7	簡単な形容詞が書ける、読める、
4	どこ	2	場所を表したり、尋ねられたりできる
5	どこの	3	色々な国の名が言える、書ける
6	復習	2	日本語で書ける、読めるようになる
7	テスト	1	勉強したことを確認する
合計時間		21	
年間学習時間		93	

4

## 授業の準備

- ・モンゲンニ学校の中西先生と相談した。  
モンゲンニ学校の4年生の指導案に合わせて、修正した。
- ・テーマに合う教具を作成しておく  
(絵カード、実物など)
- ・授業に使う教具は分かりやすくして、自分たちの好きなようにたくさん作らせた
- ・教案を中西先生に教えていただいて、教案の最後にその日の授業の反省や学習者の様子を書くようにした
- ・黒板にその日のCan-doを書いておく

5

## 授業の流れ

- ・前日の授業内容の確認をする。
- ・その日の授業のCan-doを書いた紙を黒板にはってみんなで一緒に読んで確認する
- ・導入、基本練習、簡単な会話のテストをさせる
- ・授業の終わりにまとめをする  
その日の授業についてどんな内容だったか聞く
- ・学習者に自己評価をさせる

6

## ポートフォリオの作り方

- ・日本について写真や絵などを入れる
- ・授業以外でしたことや知ったことを入れる
- ・自己評価表を入れておく
- ・授業が終わる時その日の自己評価を記入させる
- ・学習者が楽しく使えるように自由に飾らせる
- ・月曜日、先生にあずける
- ・金曜日は持って帰って親に見せるようにしている
- ・教師もポートフォリオを持っている

7

## ポートフォリオ



8

## 自己評価表 (今日はどうだったかな?)

しゅう Долоо хоног	時 Цаг	CAN DO Чадамж	よく できた Сайн чэдсан	だいたい できた Бараг чэдсан	もう ちょっと Дахийд жоохон	いつ Хэзээ
			◎	○	△	
4	1	数字が読める、書ける				
	2	野菜の名前が言える				

9

## スタンダード授業開始前と現在

前はスタンダードについてよく分からなかった

- ◎ **今少しわかるようになった**  
教科書だけ使っていた。文法中心でした。
- ◎ **教科書以外に子供に合う簡単な日常会話を指導**  
今までは教師がすぐに黒板に書いて、分からないときに全部説明していた
- ◎ **説明する前に子供に想像させる**  
自分の知識を子供に押し付けていた
- ◎ **実際の子供の生活の必要なことを考えるようになった**

10

### 学習者の意見

**一番楽しかった授業**  
 「いくらですか」と言う授業→ 学習者がクラスを店にして店員になって、お客さんになって、会話をした  
 野菜の名前を描いた

**あまり楽しなかった授業**  
 家族を紹介する授業→ 家族の誰かがいない子  
 1.(父、母、おじいさん、おばあさん)がなくなった子  
 2.両親が仕事がない子が悲しそうだった  
 先生は顔が見たらすぐわかります。だから紹介だけでいいんです。

**その他の意見**  
 ・授業時間数が増やしてほしい

11

### 教師の意見

- ・子供ともっと話しをしたほうがいいと思う  
 まずは子供の心をよく分かっていないとだめだと思う  
 今までの授業を教えている内に考えたことが  
 グラスに入って子供の様子を見る。  
 \*顔を見る  
 \*目を見る
- ・子供の心を分らないと授業もうまくできない。  
 このことは教えるよりも大事なことだと思います。
- ・自分の知識を自分が生まれ育った町の子供たちに伝えてあげたい  
 教えている先生は二人しかいないから、先生が一生懸命頑張らなければいけません

12

### 利点

**生徒の側：**  
 積極的になった  
 自主的に学習するようになった  
 グループ学習の力が伸びた  
 お互いに尊重することを学んだ  
 教師が説明する前に自分たちで予測できるようになった

**教師側：**  
 他科目の先生たちと協力して仕事するようになった  
 使用する教具の種類が増えた  
 毎日楽しい授業をしようと思うようになった  
 インターネットでいろいろな資料を集めるようになった

13

### 問題点

- \*子供中心の授業が心にかけているが子供たちはそれになれていない
- \*子供の人数が多くて大変な点があるしいいところもある
- \*学校以外で日本語を習うチャンスがないので、日本語のレベル上げることが難しい
- \*760人の子供に二人の教師では足りない
- \*日本語教育の環境はウランバートルよりも劣る
- \*子供たちも日本語の情報を得にくい
- \*日本人教師がいない

14

### これが課題

- ・もう一人の日本語の先生にスタンダードを指導をできるように自分が勉強をする
- ・日本人の先生がいないので、他の日本人の先生、モンゴル人の先生に聞いたりして勉強しなければいけないと思う。  
 特に同じJFスタンダードをやっているモンゲニ学校の中西先生、4年生で授業をやっているアムガラン先生と意見を交換して授業を教えたい
- ・できるだけ会話を増やしたい
- ・遅れている子供がいれば補習する

15

### ご静聴ありがとうございました



16

<PPT 資料の補足>

- ・授業時間数：現在、2~5年生は3時間/週、7~11年生は2時間/週
- ・4年生の授業時間：93時間/年

(1学期：21時間、2学期：24時間、3学期：21時間、4学期：27時間)

・学校以外で日本語に触れる機会がなく、日本人教師もいない。

そのため日本語能力を上げることが難しいが、だからこそ時折日本人がくると、学習者たちはとても喜んでいる。

<ビデオによる授業風景の紹介あり。>

①前回の復習：時計の絵カードを見せて、T「何時ですか。」 S「〇時です。」

②動詞の授業：教師がジェスチャーで様々な動きをし、学習者が予想して言う。分かる言葉は日本語で答える。分からないときは、教師がジェスチャーをしながら言葉を書いたカードを見せて、学習者に答えさせる。

例、T（本を読むジェスチャー） S「ほん。」

T（飲むジェスチャー＋「のむ」カード） S「オーフ」「の む」